

第23回 第5分科会会議録(概要)		場 所	新宿区役所第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年5月15日 午後7時00分～午後10時20分	記録者	【学生補助員】 久保田・多久
		責任者	区事務局(松浦・池田)
会議出席者：20名 (区民委員：13名 学識委員：2名 区職員：5名)			
配付資料 第22回会議録 提言素案 進行内容 1 はじめに 2 学識委員より 3 報告事項 4 提言素案の検討 5 事務連絡 会議内容 【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員 1 はじめに : 配付資料の確認(2点) 配付資料 「提言素案」は、前回の分科会で検討した内容を踏まえて、各執筆グループに修正していただいたものです。また、一部未修正の部分もありますが、後程、皆さんで検討、確認していただきたいと思います。 本日の進め方ですが、まず、廣江先生に提言素案のまとめについて、お話していただきます。次に、5月14日に新宿区民会議世話人会及び編集部会がありましたので、橋本先生より報告していただきます。その後、提言素案を検討します。最後にまとめ、事務連絡となります。 提言書の構成ですが、編集部会で検討していた大項目を4つにする案が、世話人会で了承されました。第5分科会は、4つの大項目のうち、「(仮)土地の記憶の再生と創造」と「(仮)楽しもう新宿」の部分の中項目を執筆します。その中で、「(仮)楽しもう新宿」については第5分科会が中心となりますので、大項目の名称などを橋本先生中心に考えていくことになりました。それでは、廣江先生、橋本先生より			

まとめに向けて、お話をお願いします。

2 学識委員より

- : ずいぶんと長い時間をかけて、検討してきました。この提言は区政に反映することです。新宿区の自治を皆さんがつくっていくために、もうひと粘りしていただいて、ぜひ説得力のあるいいものにしていただきたいと思います。この提言が活用されるためには、説得力が必要だと思しますので、もう一度、他の目線で見ただいて、どれだけ訴える力があるか、なるほどそうだなと思っていただけるかどうか重要です。全然関わりのない方たちに対して、説得力をもつということ、いろいろとご議論いただければと思います。よろしくお願いします。

3 報告事項

- : 5月14日の編集部会の内容を簡単に報告させていただきます。中項目の若干の入りくりも含めて、4つの大項目の並べ方についても検討しました。その結果、「(仮)われらの新宿」、「(仮)くらしを守り、いのちを育てる」、「(仮)土地の記憶の再生と創造」、「(仮)楽しもう新宿」の順番になりました。「(仮)われらの新宿」を一番目にもってきた理由は、制度であれ、そういうものを最初にもってくるのが他自治体の計画などでもあまりなく、よいのではということです。第5分科会は、大項目の3番目と4番目を主に担当することになりますので、これから原稿を詰めていきたいと思います。また、学識委員も、大項目のくり方の説明などをつくるといことになりました。今後は、皆さんは原稿の調整などの作業を進めていく段階です。以上です。

4 提案素案の検討

- : ありがとうございます。引き続き提言素案の検討に入ります。原稿の締め切りが5月19日ですので今日ある程度の形までまとめたいと思います。また、前回、検討の順番が最後になり時間が足りなかったので、今回は「知のネットワーク」から始めたいと思います。また5つの項目のうち、「知のネットワーク」と「道草したくなる楽しいまち」については修正原稿が出ていますが、その他3項目については修正が終わってない部分があります。では「知のネットワーク」からお願いします。
- : 前回の原稿は、やはり図書館のイメージが強すぎたように思います。また、断定的な言い方をしようと思ったのですが、そうではなく穏やかに皆さんに働きかけるようにやわらかい言葉でということ修正しました。それから、情報が今後どうい

ふうに発展していき、また私達がどういう情報を欲しがっているのかまだ皆さんと十分にお話し合えていないと思います。いろいろアドバイスをいただいて少しずつ全体が見えてきたような気がします。情報を皆さんに手足のように使っていただくためにはどうしたらいいか。また情報を使えない弱者、お年寄りやパソコンを持っていない方たちのためには図書館職員が代わりに情報を与える、またはチラシや紙媒体により皆さんに伝わるように努力しなければいけないというふうに思っております。情報は、知能が高い優秀な人達を使うのでしょうか、それだけで終わってはいけないということをお確認したいと思います。自分たちが望んでいる情報ネットワークはどのようなものと考えていいのか、皆さんの考えていることをお聞かせいただきたいと思っています。それからスペースの問題もあり漢字が増え言葉がだんだん堅くなってきた気がしますので、皆さんがわかりやすいように「ネットワークを通してアメリカの図書館の書物も見ることができる」というような具体的な事例も入れたほうがいいと思っています。

- : 情報ということは何かということですね。情報を伝達する発信・受信基地のものの中に図書館がある。情報とは何かということですが、例えば、私が出版社に勤めていた当時は情報が少なく、紙媒体にしたものを受け手はお金を出しても買ってくれる時代でした。今はフリーペーパーも多いし情報が過多です。その中で図書館は最近、インターネットにも取り組んでいます。多種多様な情報があり、それらを必要としている人はどこかにいる。くだらない情報でも難しい情報でも、どこかに必要な人がいるので、情報は発信していくものだろうと思うのです。その場合に私たちにとっての情報を考えると、われわれが必要としている適量で適切な情報というのはどんなものだろうかという事がある。そのときに発信する側の問題もある。だから誰が発信するのかということですね。一つは、施設があって情報センターの機能を有したものの、図書館の機能がある。またそこから情報を発信する人間の問題があります。それには新宿区民ブランドというものをつくらないと私達がいくら情報を発信しても、多くの質・量の情報のなかで埋没してしまう。たしかに新宿区民会議や何かの委員会が関わっている情報というものは、多くの情報の中で選別されたいい情報であり、区民のために必要とされたブランドをつくらないと埋没してしまう。
- : やはり中にはとんでもないデマやインチキ商法がとびかっているわけです。正しい情報、間違いのない情報というのはそれだけ価値を生んでくる。その内容も中に入っていますが、まだまだ書ききれないかもしれませんね。
- : 3行目に静脈となっていますが、栄養を供給するという意味で動脈のほうがこの文章には合いますよね。今アメリカの大学でどのようなことをやっているかという話を若干させていただきます。スタンフォード大学が、図書館を大改造するというので、すべての書物を画像に収めるという作業をしています。それはいいかど

うかということはあるのですが、私は紙で見たいと思うのですが。すべてものを經由しないでどこにいてもアクセスする権利がある方には図書館の所蔵しているものはすべて読めるようになる、という壮大な実験をしているようですね。これも一つの理念であります。どういう理念かという、ここでデータデバイスの話が出てくるのですが、大切なのはITという手段を使って、可能なことと可能でないことができてしまう、という事があるのです。一番の理念として置くのは、誰もが新宿区民、国民ということになるんですけど、情報に対して平等にアクセスできる、というものがすごく大切なんです。だから偏ってはいけない、というときにITという手段を經由しなければいけないという事だけだったらそれは問題がある。つまり、これは出来ない人もいるから、ということではなくて、いつも複数の手段が用意されなくてはならない。あるいは3つ4つの手段がなくてはならないということが一方にあって、そのことが誰もが情報に平等にアクセスすることができる。つまり誰かの独占物ではないことを新宿区が示していかななくてはいけない。区民もそういう立場であろう。そういう図書館を考えていきたいということだろうと思うんですね。それから図書館員の話が出ていますが、人が支えるシステムは、私は重要だと思うんです。一方で技術的にシステム化はどんどん進んでいきますけど、そこに人という要素が関わっていくことによって、デジタルとアナログの両方のいい部分が生かされてくるわけですね。それをどううまく活用していくかというときにやはり人も必要であろう。人にお金を使うということを考えなくてはいけない。機械化が一方で進んで便利になるけれども、人という要素をもっと使っていった図書館員のやることはもっともっとたくさんあるはずであると思います。そのあたりを書き添えていただくと、「知のネットワーク」が意味したいのは、ネットワークを繋ぎました、ということだけではなくて、繋ぐことによって、異質なものが触れ合う、その先端が図書館だということだとか、そういう情報拠点になってくると、そこで生まれてくるものがある。だから動脈でなければならないという話になるんですけど。新しいものが生まれてくる、つまり本を読んで消化しましょう、自分の役に立てましょう、それだけでなくその事から生まれてくる新しいものが何なのか。そういうために、拠点をつくるんだ、そこがすごく大切で、そこをもう少し書き込んでいけばいいのかなと。そこが弱いんですね。そのためにいろいろな人が集まってくるネットワークをここでやるので、人の要素があり、ものの要素もある、そこから生まれるものに期待したい。そこを支える図書館員がいたり、私は学芸員も書いていただきたいと思うんですけど、専門的な人たちが支えていて、次に能力が伸びていくことが新宿区はできますよ。ぜひ発展性のある、力強いことをもう少し入れていただきたい。図書館の機能が変わってくるわけですから、変わっていく情報拠点という書き方がいいのかな。それは理念として、将来あるべき姿として。そういう情報拠点としてのネットワークであって、図書館もそういうふうに変っていくであろう。大学の

図書館もそういうふうになっていくと思うんですね。小学校も組み込まれるとか、もっと別なもの、公民館も入ってくるとか、そういう新しい次元になっていくと思うんです。ふれあう場所があって、だから拠点なんです。ふれあうことによって、新しいものが発見して次に創造的なことが生まれてくる。

- : 基本的に賛成ですが、3点の提案をしたいと思っています。1つは、図書館ということ聞いたときの一般の人たちの印象ですね。旧態依然の図書館を何とかしようという事はわかるんですが、逆に図書館というものを旧態依然のものに押し込めようとしている印象がぬぐえないなと思います。もう1つは新宿区として、新しい情報ネットワークを提案するという話があったので、その部分につながっていく話だと思うんですね。具体的な話をするとわかりやすいと思うのです。情報コンシェルジェという言い方があったと思います。情報化社会といっているが、いろいろな情報があって、信用できない情報・ニュースというものもある。そういう意味では、新宿区のパブリックで信用できる情報を発信していく視点はものすごく重要なことで、そのために図書館を起点にしていきましようということには賛成なんです。ただ、その部分を伝えようという意図と、実際に伝わっている印象がミスマッチしているのではないかと考えています。図書館という言葉を使うことによって、逆に書物とか古い体質のものに戻ってしまって、全然、新しさがなくなっていく。新しく大事なことを言うために、表現方法の切り口を変えるとか、例えば、情報コンシェルジェという言葉を使い、それは何ですか、ということによってその次の先のことに繋がるのかなと思います。
- : 今まで図書館は紙媒体の本が中心だったが、これからは図書以外の情報というものがある。図書とか司書だと従来型の図書館をイメージしてしまう危険があるんですよ。私は情報コンシェルジェはいい言葉だなと思っています。司書というと、やはり紙媒体の本をいかにうまく検索するかという役割を担っているように思います。従来型の図書館司書ではなく新しい概念で提案しないと他の人はついてこないと思います。
- : 図書館でない、新しいものという表現ですね。
- : 情報は無限です。区民会議で新宿区のためにというのは行政のためにではなくて、新宿区で働いている人、住んでいる人、関心のある人、外から来た人、そういう人のためです。そういう人たちにとって有用な情報をいつでも取り出せる。それから自分の関わっていることを発信したいと思ったとき情報発信できる手段であったらいい。そういう情報ネットワークであったらいいと思うんです。図書館と地区協議会を地域の情報拠点にしたらいいいのではないかと。図書館は9館ですが、地区協議会は10箇所あります。そこを図書館司書や学芸員だけではとても対応できないので、区職員、区民会議委員や地域の住民もすべて含めて地域ごとに選定した人の中から利用者に交代で使い方を教えることとか、そういうことを含めた情報のネットワー

クをつくるのが最近の区政の流れとマッチするのではないかと思います。

- : そのときに大事なのは図書の中には情報の部分だけではないという事です。例えば、文学や芸術とかもある。また子どもへの読み聞かせや読書運動も非常に大事な事です。図書館すべてが情報化することだけでは決して正しいことではなく、どういふふうに入れ込むかを個人的にはお願いしたい。
- : それは残さなくてはいけない大事なことです。情報だけに流されては絶対にいけない。すぐに結果は出ないがそれはとても大事なことです。これは外したくないですよ。
- : 私自身図書館は情報拠点という言い方をしていたんですけど、そういうものに今の図書館が脱皮することがここではとても大切です。情報拠点に何があるかという、そこにアクセスできる情報があるということですよね。私は文学も情報だと思っています。誰もがアクセスできるということ、誰もがそこに行ける具体的な場であるというものを用意しなくてはいけないと思うんです。読み聞かせの重要性はそこにいろいろな人が集まるといことなんです。それからいろいろな議論を持った人たちも集まることができるだろう。そういう具体的な人間同士のふれあいの場も用意する必要があるように思います。これはすごく大切なことだと思います。それを誰が考えていくかという場合に、いろいろ企画する人も必要でしょう。情報整理したり、その情報に新たに付加価値つける人も必要でしょう。新しく物的に紙という媒体に置き換えられた情報を利用する人も必要でしょう。それが今の図書館司書の役割なんですね。日本では司書というと、本を貸し出す役割しかしていないように思うが、そうではなく、例えば、学生がレポートを書く場合に、かなり高い部分の教育をするのがアメリカの大学の司書なんです。日本ではやっていないだけの話なんです。そういう機能をどんどんつけていくわけですよ。そういう能力を持った人が集まる。だから能力をもった人たちに支えられる情報センター、情報拠点である必要がある。それが様々な情報と結びつき、いろいろ毛細血管のようになっているがどこかに太い拠点があるわけですね。そこが新宿区の中に平等に用意されていることが必要であろう。それは本の世界から出るが、本も大切だというふう考える必要があると思います。一度図書館という我々のもっている古いイメージをぶち壊す必要があると思います。それ位のことを書いていただければいいでしょう。
- : 図書館を情報センター化する。では、どういふふうにするのというようにすると、意図が少し伝わりやすくなるのかなと思います。
- : 情報センターとか「知のネットワーク」のそれぞれの言葉の定義はどうなのでしょう。情報拠点とは何だ、ということをも最初に定義付けてしまう表現はありますよね。つまり図書館を各地域の情報拠点として、そこに住んでいる人たちやすべての人が平等にアクセスでき、集まることができる。そういう場所として、図書館が準備されて地域の情報拠点としての将来の姿を明確にし、その情報拠点の一つひとつ

が新宿区内にあり、横のネットワークをつくることで、新宿区全体の「知のネットワーク」が作られる。そんなイメージを書かれたらいいのかなと思います。

- : 私は中間発表の時のものがどのものより基本になると思っています。そうすると4つの項目がネットワーク化されて、それが観光で知名度を上げていくと。観光はもっと大きく世界にも全国にも発信するような拠点にしたいと思うんですね。10年20年先を考えてみて、子どもたちにもっと大きなことを残していきたい。「知のネットワーク」の将来像はとても大切です。大きな構想で情報センターを打ち出せるわけですから、アメリカからでも、新宿区の情報を見て観光に行きたくなったとか、文学でもこういうのがあるんだということがわかるような情報拠点にしたい。あまり今の図書館にこだわらずに、小項目で読みきかせなどは十分に書けると思います。ですからもっと大きな構想を子どもに残したいと思います。
- : 「知のネットワーク」は4つの項目の柱の土台になるだろうと思います。その点でいえば単なる情報流通の話とは違うかなという気がします。
- : 最初に第5分科会が始まったときには、みんなそれぞれ活動しているんだけど、お互い全然知らなくてそんないいことやってたのという感じでした。それでお互いにやっていることを知りたいねということから、どこにいけば、その情報がすぐにわかるかという話が出たと思います。消費生活センター等いろいろな場所があると思うんですけど、そこでやっていることがみんなに知られていない。それをどうすれば知ってもらえるかといったら情報を集めて発信する。情報の収集発信するためにどうやったらいいか、その一つとして図書館はどうだろうかという考えが出たと思うんです。それで図書館のスタイル云々ではなくて、例えば、情報が集まったところで、そのことについてどこに行けばいいのかというのを聞かれた場合にそれはリサイクル活動センターでというふうに紹介できるという、そういう意味だと私たちはずっと言っているんですが、なぜ図書館かということ、赤ちゃんからお年寄りまでいつでも行きたいところにいけるからということで提案したわけなんです。
- : 10年後20年後にはこうなってますという夢を「将来あるべき姿」のところに書くといいかなと思います。だからこの「知のネットワーク」のところでも将来は各地域ごとに核があってそれをネットワークで繋いでいますとか、誰でも行けばそこにアクセスできますとか、そういう書き方をすれば、図書館といってもずいぶん違うものになるんだなということが青写真として確立されると思います。
- : 図書館は、みんな小学校でも中学校でも地域の図書館でも経験している。非常に敷居が低くて、みんなが行きやすいというのはその通りで、そこをうまく改變していくというのは悪くないと思うんですよね。例えば、中央図書館のあり方も含めて。その部分は構わないんですが、やはりその書き方だろうと思われれます。最初に図書館は従来のものではないんですよということを最初に振ってしまうと図書館の常識を壊してしまうことです。それがなくなかなかみにくいので、私は従来の図

書館と違うものをいいますと、最初に結論を言ってしまった方が読者はわかりやすい。

- : やはりサービスだと思うんですね。サービスの究極はホテルで、コンシェルジェに聞けば全て教えてくれる。例えば、図書館をミニFMステーションにするとか、地域コミュニティの情報発信にする等のアイデアがあります。インターネットは埋もれすぎてわからないんです。そうするとメディアとしてのサイズはラジオ局が一番適当なんですね。情報発信しながらインターネットで専門的なことをやっていき、もっとより良いサービスをしていく人がでてくるようになる。たぶん一つだけではなくて、複合的な要素をもっともって入っていく。あれもこれもできるということをもっと広げていってほしいです。そういう機能をこれからは新しい情報センターが担う。いわゆる既存の図書館を変えていく、というようなイメージが一般の人にわかりやすいのではないかと思います。
- : 現状と課題というところにどう書き込むかということが一つあります。現実に図書館や文化センター等いろいろなものはあるが、それが「知のネットワーク」として機能していない。人が集まれる観光とか産業とかとリンクしていない現状をここに書き込んでしまって、これをどう突破するのかというところに課題があると最初に押さえる。現状と課題のところで押さえてしまうと将来のところに繋がるかなと。各地の図書館の事例がありますよね。新宿は日本の中心、東京の中心である。本来そういうところで、仕事だとか困ったときに地域のかげこみ寺として図書館が機能するということがあっていいと思います。そういう複合的な施設として地域の中心として巣立っていくことが求められるのではないかとということが現状と課題のところで触れると将来のところで飛躍ができると思う。
- : かけこみ寺という言葉が象徴していますよね。図書館ということではなくて、情報ステーションの中に図書館もあるという発想でしょうか。情報ステーションの箱は図書館になりますよというニュアンスでしょうか。情報かけこみ寺の方がインパクトがありますね。
- : 今まで話し合ってきたことはそういうことだと思うんですね。みんなやっていることをお互い知りたくて、でもどこにいったらいいのかわからないからどうしようかと。だからむしろ情報センターの中に図書館があるという書き方のほうが、実際には図書館が中心になるかもしれないけど、いいかなと思う。図書館の未来の姿としては情報センターの色合いを大きくもっているものだと思います。
- : あくまでも中央図書館というのは情報ネットワークの発信基地ということでネットワークづくりに重きにおいてそれを発信する。しかし誰もが情報を得るために身近なところに地域図書館を、というのはちょっと違うかなと思う。それは図書館ではなくても、一番、普通の人が行きやすいところというのは、地域センターだと思うんですね。新宿区はかなり地域センターに力を入れてあちこちに建ててます。それ

を利用しない手はないんじゃないかなと思います。

- : ネットワークという言葉自身が同じものを結びつけることではないんですよね。あまり同じものを結び付けても意味がない。違うものを結びつけた時に価値が発生する。だから図書館のネットワークという場合には様々な特色をもった図書館であってもいいし、逆に地域のセンターが図書館化してもいいし、図書館が変わってもいいわけですね。あるいはもっと別のものの方が10年20年先にはいいだろう。問題はそこで提供されるサービスで、区民にとっては必要最小限のものがどこに行っても得られる。その後のプラスアルファが特色をもっていて、それはそこから情報としてインターネット経由で得るか、そこに行き行ってやるか、それは皆さん選んでくださいね、というふうになればいいと思うんですね。そういうものを用意していく。使いやすいところにあるというのがポイントです。ですから大学の図書館と結びつけた場合には、大学の図書館が持っているものは地域で検索できたり読んだりすることができますよ、とかですね。そういう方向に行くと思いますが区民側の需要のほうから作っていくことが大切だと思います。
- : 中央図書館でなくても、別のものを大きく建ててもいいわけですよね。そこに図書館や消費生活センター、文化センターも繋がればいい。既存のもので繋いだ場合には、縦割りはなかなか解消されないと思います。しかし新しいものを建てると、そこには縦割りでないものもけっこう繋げるわけですよね。中央図書館もいいんですけど、もう少し大きな中央図書館以上の情報ネットワークの夢を打ち上げて欲しい。
- : 行政が持っている資料やデータをどう活用するかという話になっている。最初は区民生活の中で必要な情報や新宿の魅力を発信するようなネットワークという発想があったと思う。そういうものは行政にはなかなか集まらない。
- : 情報というものは行政、地域、区民、社会情報などいっぱいあります。その情報をどこかで集約して、編集、加工するスタッフが必要になる。そこは信用ある新宿ブランドをつくっていかないと埋没してしまうと思います。多面的な情報をどこから受けて、加工して、発信していくかという。行政は行政情報だけでなく、例えば、小学校、中学校はそういう情報が集まる可能性がある。地域センターもそうだと思いますし。そういうところをまんべんなく毛細血管のようにしていこうということだと思います。
- : たとえば裏新宿、裏高田馬場がありますよね。裏新宿は新宿に関する情報が細かく情報が流れている。
- : それは例えば2ちゃんねるなどで、変な情報がいっぱい流れるようなものです。この場合情報が平等にアクセスできるのかが大事ですよね。平等にアクセスできるのは地理的な問題もあるし、技術の問題もある。ITができなければ紙媒体となると、どこかで補完しないと平等ということが成立しない。それと、人が集まる場所に情報が集まってきますから、人間の情報もくっついている。そのところで集める

機能をどう確保するかということだろうと思いますけど。

- : わかりやすいお話をしたいと思います。私が立教大学に勤めたのは1991年で、それまでは別の大学にいました。大学に行ったら驚いたことに、大学の図書館は夜7時で閉まってしまうんですね。今は夜11時過ぎまで開いていますが。どうして夜7時で閉まるんですかと聞いたら、学生が使いませんからと言われまして。それは違うだろう。学生にどうやって使ってもらうかがあなたの仕事でしょと言ったんです。つまり本来そこがプロの仕事なんですよ。で、ここで専門家を置こうと言っているのは、今おっしゃったような、どうやって使っていくかというようなことを仕掛けていく人が絶対必要なんです。そういう人がいないと発展性がないんですよ。だから人という支える要素が必要だと繰り返し言っているわけでそれを大切にしよう。
- : 実際に情報を手に入れることを知り、いい繋がり方ができれば、広がっていくだろうと思うんですね。こんなにいいものだということはPRもしなければいけません。私たちはいいものをつくるし、いろいろな人が使えるものをつくるという気持ちがありますね。
- : 図書館をもっと上の次元で捉えたいと思っています。この文面だけみると図書館の文字が多い。図書館を情報センターに全部言葉を置き換えたらどうか。そうすると誤解されない。変わろうとする気持ちは文面からわかるが、やはりイメージが固定的になってしまう。情報センターに変えたら内容ががらりと変わるような感じを受けます。
- : 図書館のイメージが皆さんの頭の中にこびりついてしまっているんですよ。普通の図書館とは違うものをというはずいぶん前から考えていますし、全然違うイメージで表現しようとは思っているんですが。
- : 技術的にはどう読まれるかは絶えず意識した方がいいですね。重要な言葉についてはきちんと定義するなりして、私はこういうふうに使っていますということを読み手にきちんと伝える必要がありますね。これは注意した方がいいと思います。そうしないと図書館という言葉でみんな違うことを考えてしまう。
- : ぜひお願いしたいのは、新しい図書館像のイメージを出して欲しいということです。それをはっきりしてくれないと訴える力が弱いのではないかなと思いました。
- : それだけ今までの図書館から脱皮するにはよほどショックを与えないと変わらないということですよ。
- : リーダーを中心に手直ししてよりよいものにしていただければと思います。では、「道草したくなる楽しいまち」について、お願いします。
- : 過去の会議録の中から抜けていたものを選択、加味した結果、大幅に修正しました。現状と課題については、第2段落までが大幅に修正されています。中間報告を基に作成しました。また、表現方法によっては、多様な捉え方ができる部分もあると思

いますので、ご指摘お願いします。第3段落に関しては、「知のネットワーク」をさしているかなと思います。第4段落については、第3分科会のまちづくりの原稿をそのまま掲載しています。最後に、来街者がまた来たくなるまちと多様性を楽しめるまちはあまり修正を施していません。また、第3分科会からいただいた小項目はそのまま掲載しています。これが全体の概略です。詳細ですが、将来のあるべき姿については、言葉の使い方を区民の立場に立った表現にするよう最大に心がけました。20年後の新宿ということで書き入れました。また、先週の議論の中でのキーワードとして、異質なもの、猥雑なもの、種種雑多、膨張し続ける、個性、多様性という言葉をあえて入れてみました。具体的な新宿区のイメージとして、マニアックとか、猥雑さとか、中間報告の時の粹、本物も入れてみました。次に、現状と課題については、中間報告のことをそのまま入れてあります。産業、文化活動に重きがあり、産業、文化がよき、観光化と言っていたのですが、今回はあえて、観光という言葉は使いませんでした。発想をかえて、豊富な魅力や財産を見る視点、角度を変えてみる必要がある。その具体例に産業活動、文化活動、そしてユニークな人ですね。産業や人が観光資源なのだという書き方をしました。小項目にも少し修正を加えてあります。文段、誤字、論理的な使い方などがあればご指摘下さい。中間報告で出ていると思うのですが、観光ミニコースの新設、芸術村の発想などについてもご議論いただければと思います。

- : 将来のあるべき姿についてですが、私が望みたいのは、道草するのがどういう行為なのか。道草したくなるまちは、来街者がまた来たくなるまちですとも言っていて、道草をどう考えるのか書いたほうがいい。そうすると、道草したくなるまちは、多様な要素があるから、また来たくなって、道草したくなるまちになると思います。道草したくなるにはいろいろな要素があります。この要素を整理できれば、もう少しわかりやすくなります。私の考えでは、新宿をおもちゃ箱に例えます。おもちゃはいろいろな目的があるが、遊ぶ人によって遊び方が変わります。双方に面白さがある。来街者が発見するものもあるし、まちが用意しているものもある。相互がぶつかりあってエネルギーが生まれます。その辺りが道草したくなるまちのイメージなのかなと思います。
- : 今のおもちゃ箱のイメージですが、私は宝石箱と書きました。新宿区だとおもちゃ箱のほうがわかりやすいですか。
- : 自分で書いたものは自分ではわかって、第三者にはわかりにくいこともあります。伝えたいことは、これだったら、こういうふうに言った方がわかりやすいのではということも含めて、話し合ってください。
- : 多くの用意されたものに来街者がいろいろな発見をする。いろいろな道具がたくさんある、それが新宿の魅力ですね。あとは、それをどう伝えるかです。
- : 道草したくなるまちをもう一度、考え直してみたのですが、長い時間いるというこ

とですよ。長時間いるからご飯も食べるし、お茶も飲み、1日中いるような。ひとつの目的のためではないということなのかな。

- : 時間を使っても惜しくないまちですよ。情報として整理されていないところもあっていいと思う。
- : 5月14日の編集部会で、第3分科会から、超高層の項目を第5分科会で受けてくれないかという話がありました。私が独断で超高層の問題は第5分科会としては受けにくい。超高層の建物がどこに作られるのかによって、第5分科会のよいというものなくなってしまうので、場所が決まっていない限り、難しいと返事しました。第3分科会で中項目を立てられるか検討し、無理な場合は「誰もがわくわくする末端と先端のあるまち」の小項目として、第5分科会で取り入れてほしいという話になりました。
- : 超高層はどういう意味をもつのですか。
- : 超高層は新宿のひとつのシンボルです。超高層は経済効率がいいので、ひとつのまちを作るようなものだという評価もありますが、第3分科会でも建てる場所とかの問題もあり、一概に評価しているわけではない。超高層は新宿のひとつとして無視できない。
- : 今ある超高層をどう評価するかということと、これから建てる超高層をどうするかということで変わってくると思います。
- : そのところが一緒になっていました。私としては、これからの超高層ということで、建てる場所により全く評価が違いますからとお答えしました。
- : かなり議論がわかれますよね。
- : 私たちが、わくわくするとか、先端とか末端とか言っているのは、末端が先端になるような逆転を期待している。
- : 「誰もがわくわくする末端と先端のあるまち」の文章の流れからすると超高層は入ってこないのではないかと思うのですが、どうでしょうね。
- : 入ってこないと同時にスタイルの問題だと思う。調和していかなくてはいけない。どうまとめていくか、それだけで本当の部分が見過ごされている。
- : 超高層について、新宿のここでどういうものを築くか。文化の発信基地をつくる。ある意味では必要あるかもしれない。
- : それは場所を選ぶということですよ。
- : まだ道草が途中ですので、そろそろ道草のほうの結論をお願いします。
- : 大江戸線沿線で情報誌などを置き、何かの情報を提供するということは、自らの発見というのもあるのですが、「知のネットワーク」に入れたらどうでしょうか。入れるとしたら小項目というよりは事例なのかと思います。
- : そういう情報誌、事例は大切です。使い方が違うかもしれない。一方でおもちゃを用意してもかまわない。ただ、我々はそれがいろいろな使い方ができるという見方

をしたほうがいい。

- : 「知のネットワーク」だと情報の整理という部分があるので活きますと思います。
- : 新宿らしい多様性を楽しめるまちのところで、それに対して区はどうするかが、これまでの議論からでは把握できない。新宿らしい多様性を楽しめるまちのために区民が何をしていくのか、こうした区民の活動に対して区に求めるものを具体的な言葉でいただくと助かります。書き方全体のことでも構いませんが。
- : 多様性を具体的にしたほうがいいということですよ。
- : 私たちの頃の新宿は、若者のまちでしたよね。そういう意味での、異質、異端があって、でもスタンダードなわけですよ。その辺からそういう根っこがあったんじゃないですかね。
- : 新宿は若者が来るまちなのか、若者に人気がある高円寺と比較するとき、どんなまちなのか。新宿のまちは汚くて、危なくて、という話がある。ところが、高円寺は汚さがあって癒されるという表現がある。そういうことを考えると、きれいにするのが必ずしも人集めにはならない、道草をすることにつながらず、かえって汚さが散歩道になってくることもある。あまり整備されたものだとは道草したくないことになる。道草したくなるまちがどういうことを想定しているのが一般論では書けない。いろいろなものがあって、新宿なのだという多様なものか。
- : きれいか汚いかを考えるには階層がありますから、程度の問題だと思います。例えば、イタリアに行っていていいなと思うまちがあった。まちはきれいであるが、壁は古いということもある。そこはごみがあるからという話ではないので、そこは分けたほうがいいですね。どういう人が来ているのかについては、本当はデータがあった方がいいですね。今はあまり大々的に調査をやらないのですが、大学でもやっているかもしれないので調べたほうがいい。限られているものでもいいです。見ていてもわかるように、渋谷のある場所とは違って、いろいろな人が来ている。その特色があると思います。場所によっては、家族連れでは行きにくいところもあるよねということになります。
- : 新宿の文化は大人が来るまち、実際、流行のちょいワルおやじが闊歩しているようなイメージですよ。
- : 渋谷は街づくりの際に想定していた年齢層より若い人が集まってしまった。椎名誠は、渋谷は好きだけど子どもばかりがいるから、商売をするにも単価が下がるからやりにくいと言う。ニーズを捕まえて、新宿は大人が集まるまちという要素も大事にした方がいいと思います。
- : 新宿は20代以上のまち。私たちが若い頃、ジャズとか、子どもはいなかったけど、学生はたくさんいた。20代の若者はたくさんいた。今は、そういう層がいなくなっているのかなと思います。
- : 新宿は遊び方が伝えられるまちだということが大切です。例えば、お寿司屋さんの

握りすしは、いくらかかるかわからないので食べにくい。昔だったら、遊び方を知っている大人が連れて行って、食べ方とかが伝わっていくのですよね。新宿のもつよさが世代間を通じて、伝わっていくといいなと思い、遊び方の伝わるまちという言葉方をしました。そのためには、人がたくさん来ないといけないだろうということになります。

: いろいろな文化や要素が伝わっていく。演劇の見方、落語の見方、オペラの聴き方だとか、何が面白いのかが、世代間で伝わっていくところが新宿です。

: 他にも何かご意見があれば、メールでもいただければと思います。ありがとうございました。

: 「誰もがわくわくする末端と先端のまち」、「新しい文化・才能を常に吸収し続けるまち」、「本物へのこだわりのあるまち」は修正原稿ができていませんので、とりあえず、各執筆リーダーの方から概略だけを説明していただきます。なお、各分科会の原稿の締め切りが5月19日になっています。あとでご相談させていただきますが、これら3つの原稿の確認方法について、一つ目は皆さんにメール等で流す、二つ目は5月19日前に臨時会を設ける、三つ目は各執筆チームに一任するという3点が考えられます。先に、説明していただいて、その後、皆さんのご意見をいただければと思います。

では、「誰もがわくわくする末端と先端のあるまち」について、お願いします。

: 2人の原稿をリーダーにまとめていただいたのですが、今日、お配りした原稿では、前回の分科会でご指摘いただいた部分も含めて、うまく連絡のとれていないところもあります。全体の文言の調整は2人でやりたいと思います。新宿駅周辺などに防犯のための監視カメラが非常にたくさんあります。人々がたくさん集まって、憩うというまちとしては、監視が多いのが問題ではないでしょうか。そういうところ皆さんがどう思っているかお聞きしたい。

: 将来のあるべき姿で、こうなっていきたいとか、わくわくするこんなまちになっていきます、ではなくて、現在こうだと言っているような気がします。

: 他の分科会の事例の将来のあるべき姿はどうですか。20年後をイメージしているのでしょうか。

: 内容によっては差があるかと思いますが、あくまで10年後、20年後で考えています。

: タイトルの末端と先端をどう表現するかです。難しい課題を与えられている。

: 末端も先端も新宿本店みたいな表現があります。

: 新宿発とか、そういうことを考えると全部本店です。一つしかなくても、本店だし、全国にたくさんあっても新宿本店。新宿から産業も商品も発信していく、そういうまち。

: 末端と先端の定義は多少必要です。ここは産業としてのイメージです。先

- 端と末端のどっちがかっこいいかというやはり末端ですね。
- : 産業という面を見た時、新宿区は包容力があるということを書いていただければ、よいかと思います。大資本もあれば、個人商店もある。大量生産のものを売っているところもあれば、一方でご近所を対象とした手作りのものもあるわけですから。そこが新宿区のよさです。その両方を選べるまちです。それを大切にしていきたい。時代からみて進んでいるものの対極にあるものの存在を認めていくという許容度、懐の深さがあります。ただ、その際にビジネスになるように環境を整えていく必要があります。そのためには、どうするかということが課題に出てくればよいのです。そこで実は現状と課題の中で、供給する側の問題もありますが、評価する需要側の問題もあります。消費者にも問題があります。いいものをいいものと評価できなければ、それに対してお金を払えません。そこが個人商店の生き残っていく道だと思います。ぜひ気合を入れて書いて下さい。
 - : 今のところを調整していただきたいと思います。続きまして、「新しい才能・文化を常に吸収し続けるまち」について、お願いします。
 - : 前回ご指摘をいただいているところで、新しいところを許容する、妄想を新しくということだったので、将来の具体的な絵柄がグループメンバーと話し合って浮かんでいます。劇場があって、飲食店がある。その劇場に人が集まって、観劇についての話が飲食店でなされているようなイメージがあったほうがいいのか。将来のあるべき姿で書きこんでみたときにイメージが出てくるのかなと思います。
 - : そうですね。ブロードウェイやハリウッドのような。
 - : 昨夜、居酒屋で演劇について議論をしていた人がいましたが、ああいうやつかなと。美術館もったり、ポスター店みたいなところとか、飲み屋とかそういうところとか。そういうものがデザインとしても膨らましますので、取り組みの方向性も含めて、執筆を進めていきたいと思います。
 - : もう一度あるものを見直していただきたい。最先端であり末端でもある。少し離れているので競争も少なく食べる場所も少ない。もう一步、人がくれば、可能性のあるまちを見直すのもひとつテーマになるのかな。芸術的な部分も小項目に取り入れていきたい。
 - : 「新しい才能・文化を常に吸収し続けるまち」についてはよろしいですか。では、最後に、「本物へのこだわりのあるまち」について、お願いします。
 - : 将来のあるべき姿については、以前に書いたものの中に将来の姿がほとんど書いてないため、手直しします。内容について、第3分科会と調整が必要です。小項目については、何個までよいのですか。
 - : 目安は10個程度です。
 - : 小項目については、第3分科会と同じイメージのものが多いです。
 - : いただいたものをこちらがアレンジしてはどうか。構成の上で混ざっているのもあ

るだろうから、そこをアレンジする。

- : 微妙なところが違うのですが、うまく調整します。
- : ありがとうございます。では、先程もお話しましたが、各分科会の原稿の締め切りが5月19日です。原稿の確認方法について、皆さんにメール等で流す、5月19日前に臨時会を設ける、各執筆チームに一任するというが3つの方法のうち、どれにしますか。
- : 「誰もがわくわくする末端と先端のあるまち」について、もう一度、議論していただければと思います。
- : 商店主が生き残るために存在価値をどう認めさせていくか。これは先端ではないですよ。先端かもしれないけれど、時代の大きなものからすれば、違うものかもしれない。
- : どうでしょうかね。言葉として末端と先端をこだわらない。
- : 新宿に人が集まる。新宿は稼げるからだ。その言い方をすると逆に小さくなってしまいます。
- : 飲食店の回転率は速いですからね。
- : ここは何とか調整しないといけないと思うのですが。検討会をもう一度開くのは厳しいですか。
- : 原稿を書く時間があまりないですが、5月18日はどうでしょうか。(了承)
では、18日の検討会で修正した原稿の確認を行います。原稿は、以前にお示したフォーマットがありますので、それに従って、執筆して下さい。検討会を受けて、19日に事務局へ原稿を提出していただきます。
- : 19日というのは厳守ですか。
- : 19日の締め切りは厳守でお願いします。各分科会の原稿をまとめて、22日に世話人会委員へ原稿を送付します。次回6月の分科会で内容の確定をしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

5 事務連絡

* 臨時検討会

- ・ 5月18日(木) 午前10時30分～ 場所未定

* 次回分科会

- ・ 6月5日(月) 午後7時～午後9時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

以上